
デジモンアドベンチャー ダークネス・サイド

ゼクセル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンアドベンチャー ダークネス・サイド

【NNコード】

N1367Z

【作者名】

ゼクセル

【あらすじ】

ある事件で1人になった闇斗。そこへ黒いデジヴァイスが降ってきた。そして、闇斗はそこから新しい人生がはじまるのだった。これは原作にオリジナルを積極的に入れていく小説なので話の内容がガタガタになるかもしれないのとそこはご了承ください。

プロローグ（前書き）

『デジモンアドベンチャー』の小説初投稿です。よろしくお願いします。

プロローグ

1995年のある日、突然俺は1人になってしまった。原因はさつきのオレンジ色の恐竜と緑色の怪鳥との激突。奴らの戦いで近くにあつた俺の家がオレンジ色の恐竜に潰されてしまった。両親の安否を確認するため家へと向かった。がれきの下から父と母らしき手がそれぞれ1つずつでていたので引つ張った。しかし、出てきたのは父と母の腕だけだった。そのとき、俺の父と母が死んだのを悟った。俺はその事実に号泣した。

あの事件の次の日、だから俺はこうして1人さまよっていた。どこにも行くあてがないから。親戚は「金がない」だの「部屋がない」だの建て前の理由を言って俺を追い返した。他の家も同じだった。さまよつているうちに人間の汚さやあのオレンジ色の恐竜への恨みや憎しみがこみ上がってきた。

「絶対に復讐してやる！」

そう言つたら、空から何か降ってきた。幸い周りには人がいなかつた。降ってきたものを拾い上げてみると、それは黒いポケベルみたいで真ん中には画面が付いていた。そして、それは突然黒く輝き出し俺は空へと吸い込まれていった。そこで、俺は意識を失った。

プロローグ（後書き）

新参者なのでいろいろ意見をくれるとありがたいです。

主人公紹介（前書き）

闇斗のプロフィールです。

主人公紹介

暗崎
あんざき

闇斗
やみと

身長 126cm
体重 28kg
年齢 7歳
誕生日 8月10日

性別 男
性格 群れるのが嫌い

冷静
無口
孤独が好き

好きなもの

- ・蕎麦
- ・サバイバル
- ・バナナ

嫌いなもの

- ・甘いもの
- ・苦いもの
- ・甘つたれる奴
- ・命を大事にしない者

今作の主人公。我が道を行く1匹狼。3歳のデジモン事件以降心に負の感情をいだくようになる。それがきっかけで「闇の選ばれし子

供」に選ばれてデジタルワールドに行く。デジタルワールドに行つてからは闇の力を使役することができる。自分が「闇」であることを誇りとしているが命を大事にしない者を味方とは思わない。利用できる者は最大限に利用しようとする。そして闇斗のデジヴァイスは限定の能力がいくつかある。

主人公紹介（後書き）

闇斗のデジヴァイスの能力はネタバレになるのでまだ言えません。

ダークネス進化（前書き）

話がガタガタです。すみません。

ダークネス進化

s.i.d.e 間斗

……俺を誰かが呼んでいる。誰だらうへ俺は目を開けてみた。すると、変な生き物がこっちを見て、呼んでくる。ああ、夢か…。そうおもい、俺はまた目を閉じた。

ガブツ

俺が目を閉じるとその変な生き物は耳をかんできた。

「いってえええ！？」

俺はいきなりきた痛みに驚いて跳ね起きた。

「痛えな。何するんだよお前。」

？「だつてまたねよつとしてたもん。」

「や」は悪かつた。わつきから俺を呼んでつけど何の用だ？

変な生き物にまたねようとしたことを謝つてなんで俺を呼んでたのか聞いた。

？「まあ血口紹介だね。まくは「ロモ」という生き物がそつと出てきたのでなぜか聞いた。

「

「俺」を?なんで?」「ロモ」という生き物がそつと出てきたのでなぜか聞いた。

だ。ぼくはそのパートナー「デジモン」だから。「

…いま分からぬことだらけだったぞ。

「待て、『デジヴァイス』とか『デジモン』ってなんだ？」

俺はそうきいてみた。

「10分後~

「なるほど、お前らは『デジタルモンスター』通称『デジモン』と言われる生き物で『デジヴァイス』はこの世界で大切なもののなんだな。それを守るのがパートナー『デジモン』と言われる『デジモン』なんだな。」

約10分間の説明でだいたい納得できた。…え?なぜそんなにすんなりと納得できたか?最近は変なことつづきだからな。これくらいありじやねと思ったから。

「説明ありがとよ。じゃーな。」

俺は後ろを振り向いて歩いてこいつとした。

コロモン「えええ!…どうして?」

「俺には守りなんぞ必要ない。一人で好きにやるのが一番なんだよ。」

「

そう言つて立ち去りうつしたら、

ギィヤアアアア

その声とともに赤い恐竜がきた。

「な、なんだ!…あれは!…」

「クロモン」「ティラノモンだ！」

ティラノモンは俺に突進してきた。

「ぐつ…」

突進をかわうじてかわすもティラノモンはすぐに振り向いて炎を吐いてきた。これには反応できず死ぬ覚悟をした。しかし、俺は死ななかつた。なぜならその炎をかわりにあいつが受けてくれたからだ。

「お前！？　どうして、どうして俺の身代わりなんかに…」

「クロモン」「だつて守らなくちゃいけないもん。だからだ…よ。」

俺が聞くとあいつは弱々しく答えた。ティラノモンはまた突進をしてきた。そのとき、俺の心が「ティラノモンに向かって手をかせ」と言つてきた気がした。その通りに、俺は突進してくるティラノモンに手をかざす。すると、漆黒なオーラが出てきて、ティラノモンの突進を止めた。

「おー、お前。どういった理由か知らんが俺のパートナー『デジモン』に手をだしたのは許さねえ。」

その言葉でティラノモンを威圧し、漆黒のオーラで後ろに倒した。

「「クロモン、いくぞ。さっさと戻っていた進化だ。」

俺がそう叫ぶとクロモンは黒い光に包まれた。

「ロモン ダークネス進化！……………ブラックアグモン！」

「ロモンがブラックアグモンに進化した。しかし、明らかに体のサイズが違った。ブラックアグモンじゃ勝てないとthought。

「ブラックアグモン！俺がやるから退け！」

俺がそう言つが

「ブラック「大丈夫だよ。そこで見てて。」

ブラックアグモンがティラノモンに向かっていった。すると、ブラックアグモンはその体から想像できないほどのスピードでティラノモンを圧倒する。そして、

「ブラック「ベビーフレイム」

ブラックアグモンが黒い小さな火の玉を吐いた。ティラノモンは有り得ないくらいに吹き飛んだ。そして、ボロボロになつて逃げていった。

「…凄いな、ブラックアグモン。」

「ブラック「名前長いからブラックでいいよ。」

「そりゃ。」

そんな会話をするとある疑問が浮かんだ。

「それにしてもなんであんなに体のサイズが違ったのにかてたんだ？」

？「それはお前の持つ闇の力とブラックデジヴァイスによるものだ。

俺が疑問をもらすとそれに答えるよつてヴァンパイアみたいなデジモンが突然現れた。

「

ダークネス進化（後書き）

ダークネス進化は普通の進化との相違点がいくつもあります。意見、感想お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1367z/>

デジモンアドベンチャー ダークネス・サイド

2011年12月5日20時47分発行